

社長メッセージ

～新たな開発の開始にあたって～

2020年3月10日に公表いたしました「重症肺炎および急性呼吸窮迫症候群（ARDS）を対象とした MN-166（イブジラスト）の開発開始に関するお知らせ」のとおり、動物モデルの実験において、重篤な肺炎あるいは ARDS に対してイブジラストによる治療効果が認められたことが示されました。

現在、世界中でインフルエンザウイルスやコロナウイルスに起因する重篤な肺炎、あるいは ARDS によって命を落とす患者さんが多数認められる状況です。また、治療薬も限られています。そのような中で、治療効果を期待できる薬剤が手元にある製薬会社の経営者として、治療薬の可能性を追求することは一つの使命である考え、重症肺炎・ARDS を対象とした開発を始めるという結論に至りました。

慢性疾患に比べると肺炎などの急性疾患では、薬剤の投与は短期間で済むと考えられますし、本開発を開始することによって、財務面における当社の経営が圧迫されることはないと考えております。

また、適応症を増やすことで、導出や共同開発の交渉に影響を及ぼすのではないかとのご心配も頂いておりますが、これまでも当社は MN-166 において、神経疾患、薬剤依存症、グリオブラストーマなど複数の適応症で開発を進めてきており、今回の新たな開発計画の追加が導出・共同開発の交渉に影響することは少ないと考えております。

当社は、MN-166 のもつ多くの可能性に理解があるパートナーとの共同開発を望んでおります。導出・共同開発自体が目的となり、MN-166 のもつ可能性や、今までの開発努力が失われることは当社の望むことではありません。

社会が遭遇している困難な状況の中で、科学的根拠に基づく治療効果の可能性のあるコンパウンドを持っている会社として、社会的使命を果たしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただけますと幸いです。

当社の理念は、「十分な治療がまだ確立していない疾病を患う世界中の患者さんに、よりよい治療を提供することにより社会に貢献すること。」です。当社が経営資源を集中し進めている MN-166（イブジラスト）および MN-001（タイペルカスト）の開発ターゲットは、いずれも治療法がない、あるいは、治療法があっても効果が限られている難病、あるいは社会的に大きな問題となっている各種の依存症です。これからも当社の理念に基づき社会に貢献できる製薬会社に向かって経営してゆく所存ですので宜しくお願い致します。

以上

メディシノバ・インク
代表取締役社長兼 CEO
岩城 裕一